

フェリス女学院創立 140 周年記念シンポジウム
「不寛容の時代に立ち向うコミュニケーション学」
パネルディスカッション～パネリストの立脚点／提案／主張の概要～

≫大倉一郎

多文化社会で不寛容を保つには何が必要か、と考
えてみたことがありますか？この問いは現代の国
民国家にとっては決して奇異な問いではなく、歴
史・社会状況に応じて表現を変えつつ表出してきま
しました。国家統合が社会の多文化化に直面するとき、
不寛容と寛容は不即不離の容態を示します。両者の
同行の道の彼方に何が待ち受けているのでしょ
うか。その道程で多文化共生コミュニケーションとし
て語り得るものは何かを考えてみましょう。

≫大河内君子

スポーツは、多様な文化や価値観をもつ世界の
国々で共通のコミュニケーション手段である。ま
た、高齢者にとってのスポーツは、自分の身体に合
った寛容な運動で行なわれるべきである。2010年ワ
ールドカップサッカーで日本が決勝トーナメント
進出を決め、日本のサッカーが世界に通用するこ
とが証明された。明治期のフェリスの体操（デルサル
ト式体操）は進歩的で自由な校風と日本の伝統文化
に重点を置きながら、女性の身体の美しさと健康を
目的に新式婦人体操として教育の先端をきっていた。

≫高田明典

「寛容」は、今、危機にさらされていると言え
ます。世の中には「不寛容」が蔓延し、不要ないさ
かや摩擦が発生するようになっています。現代思想
では、ポストモダニズムが「価値の相対主義」であ
ると批判されることも少なくありませんが、それは
誤解です。自らの価値観を明確に持っている人間の
みが、他者を受容でき、他者に対して寛容になるこ
とができます。現代が「不寛容の時代」となってい
るのは、自らの主体的価値を放棄した人たちが増え
ていることに一つの原因があります。不寛容である
とはどういうことか、また、それによって何が発生
するのかについて、考えていく必要があります。

≫潮村公弘

「不寛容」の問題に関連して、2つの研究結果に
ついてご紹介します。ひとつは、滞米中の日本人（留
学生／一般）が米国で経験した異文化葛藤について
内容分析をした研究をもとに、異文化間での「不寛
容」の問題について考えます。もうひとつは、「ゆ
るし(forgiveness)」尺度について、米国で開発さ
れた尺度の日本語版尺度を用いて因子構造を検討
した研究から、日本人の自己観と「ゆるし」概念の
結びつきについて考えます。

≫ 諸橋泰樹

9・11以降、「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容たるべきでない」という渡辺一夫のことばが思われてならない。イラクのボランティア人質事件、小泉内閣の弱者切捨ての格差社会推進…、その一方で迫害史を刻む収容所跡・平和記念館・虐殺記念館などにみられる「寛容」と「不寛容」の間を揺れるメッセージ…。現在、我われは、「赦さないこと」と「寛容」を両立させつつ、「寛容」を鍛えてゆく必要があるのではないかと思っている。

≫ 井上恵美子

人類が登場した最初から存在する「男」と「女」、そして多様性（例えば性同一性「障がい」など）の人たちにとっての、「寛容」「不寛容」問題とはいかなるものであり、今後どうなっていくのであろうか。

≫ 齋藤孝滋

【言語（日本語）コミュニケーションからみた不寛容の問題と和解への道】

I [国内] 日本語標準語に対する方言：「生活言語」vs. 「アクセサリー」（小林隆2004）

II [海外] 1. 南米日系人社会の日本語：伯他「葡・西語 & 日本語の混成言語」使用 vs. パラグアイ「日本語と西語とのバイリンガル」（中東靖恵2010）、

2. クレオール日本語：「台湾・宜蘭クレオール（簡月真・真田信治2010）」vs. 「標準日本語」

III [国際] 共生日本語：「柔道用語による共生日本語」vs. 「標準日本語」（齋藤孝滋2007）

≫ 総括 文学部長・人文科学研究科長

渡辺浪二

「寛容が拒否される少数者を容認すること」という概念である。しかし、今回のテーマで最初に思いついたのは、「寛容な論理」と「非寛容な論理」という違った観点からの分類である。少数者の論理は「非寛容的」であり、多数者の論理は「寛容的」であるという一見ベクトルが逆転する見方である。少数者の論理は「1-0」であり、中間的領域はない。これに対して、多数者は灰色の領域を許容する連束帯

ではないか。このような論点に立つのはカルトという、対人的な勧誘活動の次元で、すぐれて日常的な問題に直面するからである。歴史的な寛容の問題に、対人コミュニケーションのレベルからどのような考察が可能か考えてみたい。